B15 実体顕微鏡による未吸着幼虫恙虫の同定法

鈴木 博（長崎大学・熱研・資料情報センター）

Identification for unengorged larval trombiculid mites by binocular
Suzuki, H.

恙虫の調査には野鼠を中心とした宿主採集が広く用いられてきた。この方法で回収された恙虫は、宿主に吸着した時期が異なるため同一種であっても体の大きさや型がちまちで、実体顕微鏡下での種の同定が困難で、多くの場合はプレパラート標本を作成して光学顕微鏡下で同定する煩雑な作業がある。一方、土壌サンプルから得られる恙虫はほとんどが未吸着の状態であり、種ごとに体の大きさ、型、色に特徴があり、採集された時期、場所等をも組み合わせることによって、実体顕微鏡下で種の同定が可能である。この事は、作業効率の上で宿主採集法に比べて有利であり、また、同一種を多数回収してリケッチア分離や殺虫剤試験などの材料を供試できる側面も持っている。

B16 走査型電子顕微鏡によるバーンズツツガムシとフトゲツツガムシの形態学的比較高橋 守^o（川越総合高）、浦上 弘（新潟薬大）、三角仁子（女子栄養大）、高橋健一（北海道衛研）、鈴木 博（長崎大）Morphological comparison between *Leptotrombidium* (L.) *pallidum burnsi* and *L.* (L.) *pallidum pallidum* by SEM.

Takahashi M., Urakami H., Misumi H., Takahashi K. and Suzuki H.

Leptotrombidium (*Leptotrombidium*) *pallidum burnsi* (Sasa, Teramura et Kano, 1950) は八丈島が基産地で、*Leptotrombidium* (L.) *pallidum* に酷似することから本種の亜種として扱われている。しかし生態学的には前者はアマミノクロウサギや島に生息する鳥類から、後者は野鼠を主体とする宿主から得られていること、さらに走査型電子顕微鏡で両種の形態を比較した結果、胴背毛の配列様式、長さ、分岐の太さに違いが見られた。特に感覚毛基部の形態に著しい差が見られたことなどから、両種を独立種として扱ってもよいのではないかとと思われる。